

あきたハートフルネットの沿革

秋田県と秋田県医師会が共同構築した医療連携ネットワークであり、秋田県医師会が運営主体として2014年4月より運用を開始している。県内の病院や診療所間で、患者さんの診療情報を簡便に共有し、医療機関間の情報伝達や連携がスムーズになるため、転院時などにおける医療の継続性、検査や投薬の重複防止など、**県民のために効率的で質の高い医療の提供に資するシステム**である。

主に中核病院が参加するAパターンと、主に診療所・中小病院が参加するBパターンがあり、同意を得た患者さんの受診歴、処方・検査結果、画像（レントゲン写真、CT、MRI、心電図、超音波など）、サマリー（入院総括）などを双方向で共有できる。



秋田県医師会

あきたハートフルネットの概要

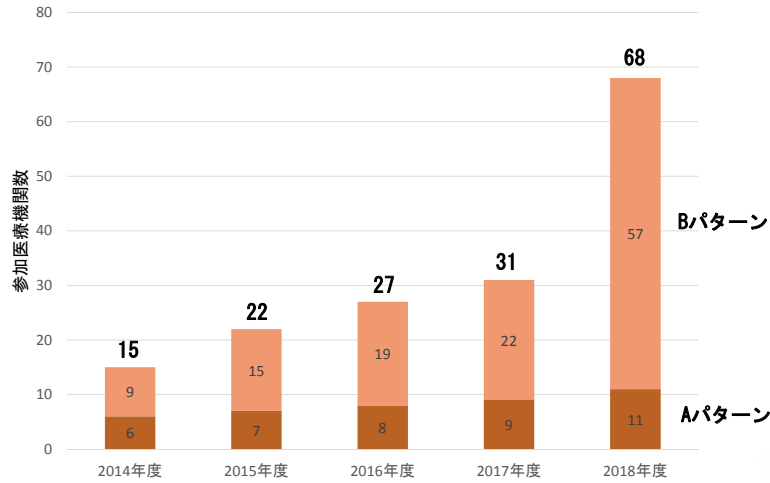
秋田県民のために医療情報を共有するシステム



秋田県医師会

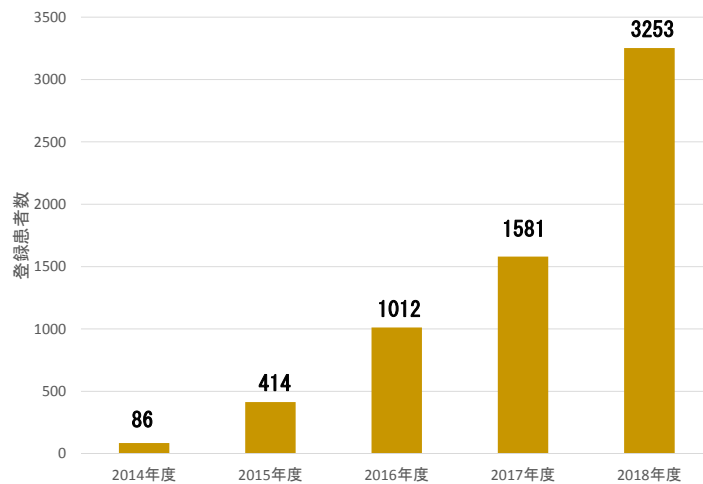
あきたハートフルネット参加医療機関の推移

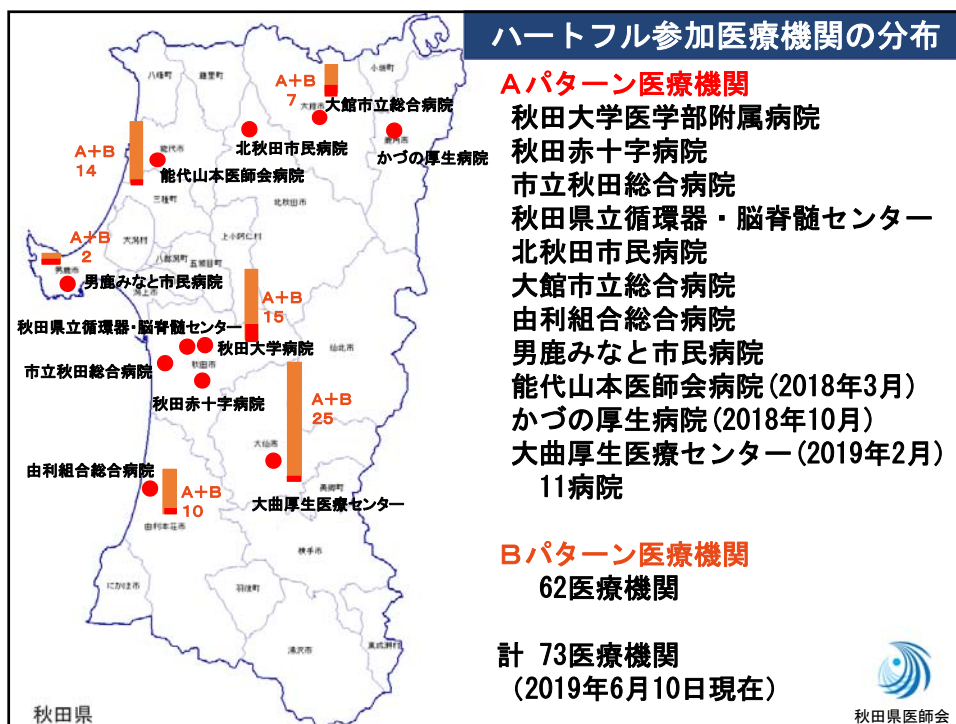
参加医療機関数は増加傾向であり、2018年度の増加が著しいが、今後のさらなる増加が望まれる。



あきたハートフルネット登録患者数の推移

登録患者数は増加傾向であり、2018年度の増加が著しいが、今後のさらなる増加が望まれる。






Aパターン医療機関とBパターン医療機関

Aパターン医療機関

主に中核病院。病院情報システム (HIS) から選択された同意患者さんのデータが、標準化された電子的診療情報から抽出されて**自動的に**データセンターへ送信される。DICOM画像 (CT、MRI) は医療機関内に保管し、アクセスされる。

Bパターン医療機関

主に診療所、中小病院。電子カルテや画像システム、パソコン (電子カルテや画像システムが無い場合等) からアクセスして閲覧でき、また、同意患者さんのデータを、アップローダを利用して**手動で**データセンターへ送信できる (双方向)。DICOM画像 (CT、MRI) はJPEG等に変換し、データセンターへ送信することができる。



秋田県医師会